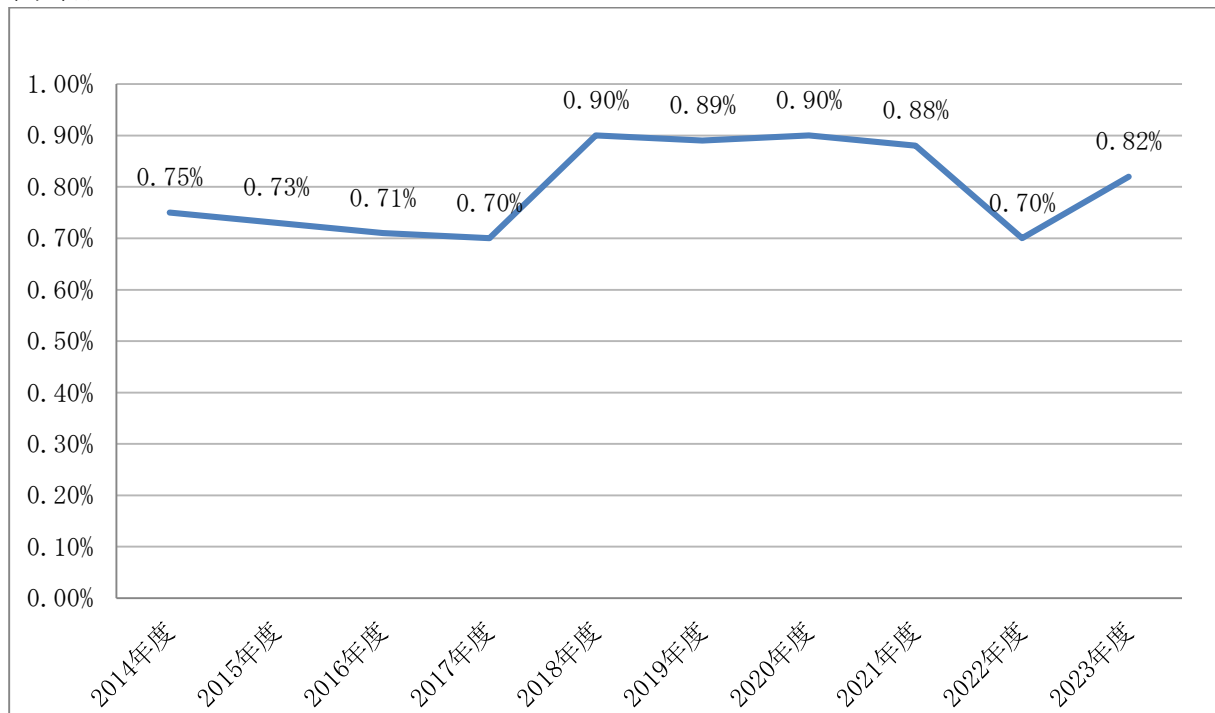


褥瘡発生率



褥瘡は患者の QOL の低下を招き、在院日数の長期化や医療費の増大にもつながる。そのため、褥瘡対策は医療、看護の重要な評価指標のひとつである。

褥瘡対策実務委員会（以下、実務委員会）により、積極的な予防策、早期の治療・ケアを多職種で連携を図りながら実践している。さらに、褥瘡発生の危険性が高い患者に対して、皮膚・排泄ケア認定看護師が積極的に関わることで、各病棟の褥瘡対策に関する意識や知識、技術の向上につながっている。その結果、2012年度以降の褥瘡発生率は1%を下回り、現在も結果を維持することができている。

現在は、さらなる褥瘡発生率の低下を目指し、褥瘡対策チームが患者のベッドサイドへの訪床し、褥瘡ケアの方法やマットレスの選択、ポジショニング等の指導を行うなど、褥瘡回診を充実させ、他職種で褥瘡予防対策に努めている。そして褥瘡対策勉強会においては、内容を各部署のニーズに合わせて、実践に役立つものとすることや、e ラーニングで勉強会資料を閲覧できるようにし、スタッフ教育にも力を入れている。

今後も褥瘡発生率の低下を目指すとともに褥瘡ケアの質の向上に向けて、積極的な褥瘡対策に取り組んでいきたい。

データ提供 褥瘡対策実務委員会
看護部 看護外来